

教育単位	教 育 内 容	認 知 領 域 面 の 学 修 内 容
<p>Ⅷ. 環境適応と自立支援に関する看護</p>	<p>と り あ げ る 看 護 技 術</p> <p>錠、経皮剤、座薬、点眼薬、点鼻薬、点耳薬、貼付剤、スプレー剤)</p> <p>②注射法（皮下注射、皮下注射、筋肉注射）</p> <p>③注射薬の管理（静脈内注射、点滴静脈内注射、中心静脈栄養法）</p> <p>4. 処置に関する技術</p> <p>①気道確保</p> <p>②人工呼吸</p> <p>③吸入療法</p> <p>④呼吸訓練</p> <p>⑤酸素吸入療法と管理</p> <p>⑥一時的吸引</p> <p>⑦体外心マッサージ</p> <p>⑧暑法（温暑法、冷暑法）</p> <p>⑨褥創の処置</p> <p>⑩止血法</p> <p>1. 入院・退院に関する技術</p> <p>①入院時の患者・家族への対応</p> <p>②入院時の看護歴聴取</p> <p>③社会復帰過程における身体・心理面の調整（散歩の計画・実施、退院後の生活環境に合わせた生活のトレーニング）の計画・実施</p> <p>④社会復帰のために必要な連携（家族との連携）</p>	<p>薬、貼付剤、スプレー剤)</p> <p>②注射法（皮下注射、皮下注射、筋肉注射）</p> <p>③注射薬の管理（静脈内注射、点滴静脈内注射、中心静脈栄養法）</p> <p>④麻薬の使用介助と管理</p> <p>⑤薬物の適切な取り扱い（保管場所・方法、温度管理）</p> <p>4. 輸血に関する看護の知識</p> <p>①輸血の介助と管理（重要事項の確認、輸血開始時の観察、輸血中の副作用の観察、滴下速度の管理）</p> <p>5. 処置に関する看護の知識</p> <p>①気道確保</p> <p>③吸入療法</p> <p>⑤酸素吸入療法と管理</p> <p>⑦体外心マッサージ</p> <p>⑨褥創の処置</p> <p>⑩スクイージング</p> <p>②人工呼吸</p> <p>④呼吸訓練</p> <p>⑥一時的吸引</p> <p>⑧暑法（温暑法、冷暑法）</p> <p>⑩止血法</p> <p>1. 入院・退院に関する看護の知識</p> <p>①入院時の患者・家族への対応</p> <p>②入院時の看護歴聴取</p> <p>③社会復帰過程における身体・心理面の調整（散歩の計画・実施、退院後の生活環境に合わせた生活のトレーニング）</p> <p>④社会復帰のために必要な連携（家族との連携）</p>

教育単位	教 育 内 容	学 修 内 容
	<p>と っ と り あ げ る 看 護 技 術</p> <p>2. 教育・指導に関する技術 ①指導内容に応じた教育技法 ②対象に応じた教育技法 ③教材（既存教材を含む）作成・活用 ④教育指導過程の展開</p>	<p>2. 教育・指導に関する看護の知識 ①指導内容に応じた教育技法 ②対象に応じた教育技法 ③教材（既存教材を含む）作成・活用 ④教育指導過程の展開</p> <p>3. 家族の役割・機能の変化への対処に関する看護の知識 ①生活環境の変化への対処 ②役割の変化への対処 ③家族機能の変化への対処</p>
IX. 安全と事故・災害への対処に関する看護	<p>1. 予防・危険からの防護に関する技術 ①感染予防（手洗い、ガウン、ドレッシング、滅菌物の取り扱い、ドレッシング、隔離、消毒、廃棄物の処理、汚染物の取り扱い、消毒法、滅菌法、空調設備の管理） ②安全の保持 ・転倒 ・転落の防止、体位の固定</p> <p>2. 事故・災害への対処に関する技術 ①災害緊急時への対処（避難誘導、担送、護送）</p>	<p>1. 予防・危険からの防護に関する看護の知識 ①感染予防（手洗い、ガウン、ドレッシング、滅菌物の取り扱い、ドレッシング、隔離、消毒、廃棄物の処理、汚染物の取り扱い、消毒法、滅菌法、空調設備の管理） ②看護者の健康管理（看護者自身の感染の有無、免疫の有無） ③患者の体内に注入する際の安全管理 ④安全の保持 ・転倒 ・転落の防止、体位の固定 ・医療器具の定期点検 ・患者の確認行為 ・微生物汚染への対処</p> <p>2. 事故・災害への対処に関する看護の知識 ①災害緊急時への対処（避難誘導、担送、護送） ②緊急災害体制 ③災害の後遺症への対処</p>
X. 看護システム	<p>1. 看護管理に関する技術 ≪認知の学修に留める技術≫</p>	<p>1. 看護管理に関する知識 ①看護活動の場を理解した看護管理</p>

教育単位	とりにあがる看護技術	教育内容 認知領域面の学修内容
	<p>2. チーム医療への参画に関する技術 《認知の学修に留める技術》</p> <p>3. 保健・医療・福祉の連携システムづくりに関する看護技術 《認知の学修に留める技術》</p> <p>4. 情報通信技術への参画に関する技術 《認知の学修に留める技術》</p> <p>5. 看護教育に関する技術 《認知の学修に留める技術》</p>	<p>②看護業務と労働、責務に基づいた看護管理 ③看護制度・看護行政を理解した看護管理 ④物品管理（滅菌物の管理、薬品の管理、医療機器の管理、看護用品・リネン類の管理） ⑤施設の看護方式に基づいた看護の展開（機能別看護、受持ち制、チームナーシング、プラマイナーナッシング、モジュラー） ⑥リスクマネージメントに基づく変革 ⑦現状のアセスメントに基づく変革 ⑧看護の質向上と質評価 ・質評価のプログラムの立案 ・オペレイティブ・評価システム ・直接観察・巡視・看護ラウンド ⑨保健・医療・福祉領域の連携と調整 ⑩社会資源の活用</p> <p>2. チーム医療への参画に関する知識 ①チーム医療の中での看護職の活動 ②チーム医療における個人の役割（リーダーシップ、メンバーシップ、他職種への情報提供と情報収集、相互カンファレンス）</p> <p>3. 保健・医療・福祉の連携システムづくりに関する知識 ①関係機関との連携の中での看護職の活動 ②専門職者間・非専門職者間での連携システムの組織化と活動</p> <p>4. 情報通信技術への参画に関する知識 ①利用電子機器への対応 ②開発された関係情報の活用 ③情報の安全管理（守秘義務、倫理的配慮）</p> <p>5. 看護教育に関する知識 ①看護教育の教育課程</p>

教育単位	教 育 内 容	認 知 領 域 面 の 学 修 内 容
<p>X I . 看護研究</p>	<p>と り あ げ る 看 護 技 術</p> <p>《 該 当 看 護 技 術 な し 》</p>	<p>② 看護教育の教育方法 ③ 看護教育の教育評価 ④ 看護教育の教育制度</p> <p>1. 看護研究の意義 2. 看護研究のプロセス 3. 研究の課題の見つけ方と絞り込み方 4. 文献検討（文献の種類と特徴、文献検索） 5. 研究課題のレベルと研究デザインの関係 6. 研究方法とその特徴 7. 研究計画書の目的と構成内容 8. 研究論文の構成と書き方 9. 看護研究と倫理 10. 研究結果の活用</p>

小児看護学：認知領域面の教育基準—教育単位と教育内容

No. 1

教育単位	教育内容	
	とりにあがる看護技術	認知領域面の学修内容
<p><教育単位構築の意図> 小児看護学の教育の主眼は、1) 子どもの権利擁護の重要性、2) ライフサイクルにおける初期の子どもの成長発達過程、3) 現代社会における子ども・家族・環境間のダイナミックな相互作用として表現される健康生活、4) 権利擁護・成長発達・健康生活の向上を支援する看護援助と保健・医療・教育システムとの連携である。そこで、これらを反映した小児看護学の基礎教育における教育単位として、「小児看護の理念」に基づき「権利擁護」「成長発達に関する援助」「生活の援助」「健康課題に関する援助」「家族援助」「環境に関する援助」「支援関係形成」「小児ケアシステムに関する援助」および、これらと統合するものとして「子ども・家族の看護過程の展開」を組み立てた。</p>	<p>《該当看護技術なし》</p> <p>1) こどもの権利と擁護 2) 小児看護実践における子どもの権利への援助 (1) インフォームド・コンセント・アセント (説明・同意・選択) (2) プライバシーの保護</p> <p>1) 成長発達アセスメント (1) 形態の成長：身体計測と評価 (2) 生理機能の発達評価 (3) 精神・運動発達評価 (4) 生活行動の発達評価</p>	<p>① 子どもの基本的な権利 (生存権・発達権・保護される権利・自己表現と参加の権利) と擁護に関わるわが国の法律や権利条約がわかる。</p> <p>② インフォームド・コンセントの権利 (真実を知る権利・説明を受ける権利・自由意志による選択の権利・自己決定権) についてわかる。</p> <p>③ 発達段階に応じたインフォームド・アセントとその方法についてわかる。</p> <p>④ プライバシーの権利の内容と、発達段階に応じた保護の方法がわかる。</p> <p>1) 成長発達に関する主要な理論・知見が理解できる。(ピアジェ、エリクソンの発達理論等)</p> <p>2) 身体発育の評価 ① 頭囲・胸囲・体重・身長などの計測法など身体計測の方法 (用具・計測部位・手順) がわかる。 ② 各発達段階の標準値・パーセンタイル値、指数の計算法 (カウプ、ローレル、BMI) がわかる。</p>
<p>III. 成長発達に関する援助</p>		

教育単位	とりあげられる看護技術	教育内容	領域面の学修内容
IV. 生活の援助	2) 成長発達の援助 (1) 身体発達の援助と精神運動・生活行動の発達の援助 (2) 発達課題取り組みへの援助 (3) 基本的な生活習慣形成への援助	1) 成長発達の援助 ①各発達段階における身体発育と精神運動発達に及ぼす影響要因がわかる。 ②成長発達を促進するために必要な栄養や、適切な発達刺激・環境がわかる。 ③発達を促進する援助方法および環境調整の方法がわかる。 ④発達段階に応じた身体発育と精神運動・生活行動の発達に関する援助方法がわかる。 ⑤小児各期における発達課題と、発達課題取り組みへの援助方法がわかる。 ⑥基本的な生活習慣の自立に関わる要因、自立過程およびその援助方法がわかる。 ①発達段階における食事・排泄・清潔・睡眠・生活の特徴がわかる。 ②発達段階に応じた生活リズムがわかる。 ③発達段階に応じた生活の援助方法がわかる。	③各発達段階における計測値の評価と結果の解釈、発達経過・発達のバランスとその要因がわかる。 ④身体計測と発育の評価、発育援助の必要性の判断ができる。 ⑤生理機能の特徴とその発達過程がわかる。 3) 精神運動・生活行動の発達に関する評価 ①各領域の発達経過および発達水準、相互の発達のバランスとその影響要因がわかる。 ②認知・言語・情緒・社会性・運動発達および生活行動の発達とその評価・検査法(特徴・検査目的・適用・用具・評価手順、結果の解釈)がわかる。 ③発達評価の目的および年齢にあった評価・検査法の選択ができる。 ④精神運動発達の評価および基本的な生活習慣の自立の評価ができる。 ⑤各領域の発達経過および発達水準と個人差について解釈し、発達援助の必要性が判断できる。

教育単位	教育内容		
	とりにあがる看護技術	認知領域面の学修内容	内容
	<p>(3) 睡眠 (4) 着衣 (5) 清潔：沐浴、歯磨き・含嗽</p> <p>2) 活動への援助 (1) 移動・運動・抱っこ (2) 遊び (3) 学習</p>	<p>④発達各期における子どもの生活への援助の必要性と援助方法がわかる。</p> <p>①発達段階に応じた抱き方や移動の援助がわかる ②運動、遊び、学習の意義についてわかる。 ③発達各期の運動、遊び、学習の特徴と発達がわかる。 ④運動、遊び、学習に関連する要因（発達刺激・環境）がわかる。 ⑤発達段階に応じた運動、遊び、学習の援助の必要性と援助方法がわかる。</p>	
V. 健康課題に関する援助	<p>1) ヘルスケアアセスメント (1) ファিজカルアセスメント ・生体情報の測定：バイタルサイン測定 ・全身状態の観察 ・異常状態の観察 (2) 発達アセスメント（再掲）</p> <p>(3) 発育・健康歴の聴取</p>	<p>1) ファিজカルアセスメント ①生体情報の測定法（体温、呼吸、脈拍、血圧、酸素飽和度、血糖値、尿量、尿比重、視覚、聴覚）・生体の観察法（皮膚粘膜・歯肉）についてわかる。 ②各段階の測定方法と標準値がわかる。 ③各発達段階における計測値・測定値・観察内容の評価と結果の解釈ができ、健康状況をアセスメントできる。 ④計測値・測定値・観察結果のアセスメントから援助内容を判断できる。</p> <p>2) 発育・健康歴の聴取 ①各発達段階に基づいた成長・発達の文脈がわかる。 ②保護者の養育状況に関して聴取すべき内容がわかる。 ③過去の発育・健康歴と現在の発育状況を関連させて、健康状態を判断できる。</p>	
	<p>2) ヘルスプロモーションとセルフケア (1) 健康学習への援助 食・運動習慣に関わる学習</p>	<p>1) 健康学習への援助 ①発達段階に応じた健康行動の形成過程についてわかる。 ②小児の健康の促進要因（栄養・運動など）・阻害要因（感染・事故・薬物など）と</p>	

教育単位	とりあげられる看護技術	教育内容 認知領域面の学修内容
<p>(2) 安全学習、感染予防 発達段階に応じた教育技法・教材作成・教材の活用方法</p> <p>(3) 健康相談</p> <p>3) 危機的状況とストレス対処への援助 (1) 危機状況・ストレスアセスメント (2) 危機・ストレス源の軽減 (3) 不安の緩和 (4) 対処への援助 (5) 環境の改善</p> <p>4) 健康を障害された子どもへの援助 (1) 症状の緩和と安楽への援助 ・ 下痢・便秘・嘔吐・疼痛・発熱・脱水</p>	<p>健康行動の関連がわかる。 ③小児のヘルスケア能力の発達とそれに応じたセルフケア教育の方法がわかる。 ④発達段階に基づいた感染予防と事故防止の知識・方法がわかる。</p> <p>2) 健康相談 ①成長発達や養育に関する健康問題についてわかる。 ②小児と環境との相互作用に基づく健康問題についてわかる。 ③成長発達と養育姿勢、養育環境の関連についてわかる。 ④発達段階や状況に応じた健康相談の方法がわかる。</p> <p>1) 危機的状況への援助 ①小児期における発達危機、状況危機がわかる (同胞の誕生、入園・入学、病気、虐待、事故、災害、死など)。 ②危機とトラウマやPTSDの関連がわかる。 ③危機への対処過程がわかる。 ④危機への対処過程への援助方法がわかる。</p> <p>2) ストレス対処過程への援助 ①小児の発達過程期における主要なストレス源 (分離、身体像の変容、自己コントロールの喪失など) と子どもの反応・表現方法がわかる。 ②ストレス対処法 (情緒的対処、問題解決的対処) と対処過程がわかる。 ③ストレス緩和のための対処法の援助やストレス環境の調整方法がわかる。</p> <p>①小児の健康の概念および病気の認識がわかる。 ②健康障害 (病気・傷害) および健康障害が成長発達に及ぼす影響がわかる。 ③発達過程における苦痛とその表現、対処方法、対処過程がわかる。 ④症状緩和や安楽のための対処について、発達段階に応じた援助法や教育法がわかる。</p>	

教 育 単 位	教 育 内 容	
	教 育 内 容	認 知 領 域 面 の 学 修 内 容
	<p>と り あ げ る 看 護 技 術</p> <p>(2) 診察に伴う援助 (3) 検査に伴う援助 ・採血・採尿・骨髄穿刺・腰椎穿刺 (4) 処置に伴う援助 ・温罨法・冷罨法 ・びらん皮膚の処置 (5) 薬物治療に伴う援助 ・経口与薬・坐薬 ・輸液時の援助・管理 ・水薬・坐薬の管理 ・化学療法過程への看護 (6) 手術に伴う援助 (7) 障害をもつ子どもへの援助</p> <p>5) 療養生活への援助 (1) 入院生活への適応の援助 ・入院時オリエンテーション (2) 在宅療養への援助 ・退院指導 (3) 療養環境調整への援助 (4) 安全・感染予防への援助 ・転落・転倒予防</p> <p>6) 生命危機の援助技術 (1) 救急処置時の援助</p>	<p>⑤診察・検査・処置に対する子どもの反応と発達段階に応じた援助法がわかる。 ⑥薬物の作用・副作用、発達段階に応じた子どもの反応を考慮した与薬方法がわかる。 ⑦手術が子どもにも及ぼす影響と、発達段階に応じた子どもの反応を考慮した援助方法がわかる。 ⑧検査・処置・治療・手術に際しての発達段階に応じたプリパレーション方法がわかる。 ⑨低出生体重児、先天性疾患を子ども、障害をもつ子どもの状況を考慮した援助方法がわかる。</p> <p>①入院に伴う生活環境の変化、生活規制に対する小児の適応と援助方法がわかる。 ②在宅療養に伴う生活環境の変化に応じた健康管理の課題と援助方法がわかる。 ③発達段階に応じた入院・在宅療養環境におけるプライバイシーの保持、遊びや学習環境の重要性を考慮した環境調整への援助方法がわかる。</p> <p>①発達各期における救急処置を要する状況（生体の病態生理・原因）がわかる。 ②子どもの救急処置法についての原則が分かる。 ③子どもの発達段階における各救急処置法が分かる。 ④救急に必要な物品や器具の準備品がわかる。</p>

教育単位	教 育 内 容	認 知 領 域 面 の 学 修 内 容
	<p>とりあげられる看護技術</p> <p>7) 死の過程に関わる援助 (1) 死の過程における子ども・家族の援助</p> <p>1) 家族アセスメント 2) 家族の発達課題取り組みへの援助 3) 母子愛着形成と家族関係形成の援助 4) 育児支援と虐待の予防 5) 病氣・障害受容への援助 6) 療育相談 7) 社会資源の活用と調整</p>	<p>⑤ 救急処置時の援助法がわかる。(呼吸停止、心停止、誤嚥、誤飲、溺水、熱傷、熱射病、外傷)</p> <p>① 発達段階における死の概念の発達がわかる。 ② 死を迎える子どもの心理過程とそこで示す反応・行動・ニーズ・援助方法がわかる。 ③ 死を迎える子どもの家族・周囲の子どもの心理過程とそこで示す反応・行動・ニーズ・援助方法がわかる。 ④ 子どもを亡くした家族や周囲の子どもの心理過程、グリーフワーク、反応・行動・ニーズ・援助方法がわかる。</p> <p>① 育児期・教育期の家族におけるヘルスケア機能と健康問題の理解と判断がわかる。 ② 各家族メンバーが家族の健康に対してもケア能力および家族システム能力のアセスメント方法がわかる。 ③ 家族の発達課題や子どもの健康問題に伴う状況危機にある家族のニーズと援助方法がわかる。 ④ 保育・育児の知識と技術が理解できる。 ⑤ 障害児療育の知識と技術が理解できる。 ⑥ 家族の育児・療育課題、家族のセルフケア能力を判断でき、それに応じた支援アプローチ法、社会資源の活用方法がわかる。 ⑦ 育児期・教育期の家族の特徴と看護の役割、家族アセスメント、家族支援法がわかる。 ⑧ 発達段階および健康レベルに応じた小児の育児相談および発達相談・療育相談がわかる。 ⑨ 相談指導内容、指導の発展や教育評価に関わる因子が理解できる。 ⑩ 相談内容の解釈と判断、解決へのアプローチ方法が理解できる。 ⑪ 家族支援のための社会資源とその活用方法がわかる。</p>
VI. 家族援助		

教育単位	教育内容	
	とりあげらるる看護技術	認知領域の学修内容
VII. 環境に関する援助	1) 自然・物理的環境の整備や調整 2) 社会文化環境の調整 3) 事故・暴力・犯罪からの保護	①発達段階に応じた物理的環境・至適環境・適応環境に関する知識と調整・整備方法がわかる。 ②小児の発達段階に応じた環境の安全（感染予防・事故防止）対策がわかる。 ③発達段階に応じた健康な心理社会的環境（家庭・保育所・学校）の要素を理解できる。 ④小児を取り巻く生活環境のアセスメントと援助方法がわかる。
VIII. 支援関係形成	1) 発達段階に応じた小児とのコミュニケーション 2) 親・家族とのコミュニケーション 3) チームメンバーとのコミュニケーション ・記録・報告	①小児の対人関係・コミュニケーション能力の発達とその特徴がわかる。 ②小児の対人関係・コミュニケーション方法に影響を及ぼす因子（発達段階、状況、環境）を理解し、対人関係・コミュニケーションを疎外する因子がわかる。 ③発達各期における小児との対人関係・コミュニケーション方法がわかる。
IX. 小児ケアシステムに関する援助	1) 小児の社会支援システムへの参画 2) 小児の保健・医療・福祉・教育との連携	①小児保健・医療・福祉・教育の中での看護職者の役割がわかる ②養育に関する保健・医療・福祉・教育の行政サービスと連携機能がわかる。 ③小児の健康の概念、家族機能、養育に関する保健・医療・福祉・教育のサービスと連携機能がわかる。 ④小児と家族の健康を維持・向上させるための行政機能や各種サービスの活用とネットワークの構築の重要性がわかる。 ⑤障害、慢性疾患、先天性疾患の知識、療育に関する保健・医療・福祉・教育の行政サービスと連携機能がわかる。 ⑥小児の健康障害の状態や予後、家族機能、療育に関する保健・医療・福祉・教育の行政サービスと連携機能についてわかる。 ⑦小児と家族の健康を維持・向上させるための行政機能や各種サービスの活用とネットワークの構築の重要性がわかる。 ⑧家族会・ボランティア活動への支援

教育単位		教育内容		領域の学修内容	
位	内容	教	育	内	容
X. 子ども・家族の看護過程の展開	とりあげる看護過程の展開 1) 子どもとその家族の看護過程の展開	術	認	知	領
					程の展開プロセスがわかる。 ②個々の事例に対する看護過程の適用方法がわかる。

成人看護学：認知領域面の教育基準—教育単位と教育内容

No. 1

<教育単位構築の意図>

成人看護学は、社会において生活を営み、家族とともに人生を営んでいる生活者を主たる対象としている。また成人の健康は現に生活を送っている地域社会や文化、経済面の実状と切り離して考えることができないものとして捉えている。さらに成人は、自己決定能力を有する自立した存在と捉えている。そうした成人に健康問題が生じたときの看護を構築するにあたって、まず1) 成人の生活と健康について概論的に学習し、2) 急性状況下における成人の看護、3) 手術を必要とする成人の看護、4) 慢性の経過をたどる成人の看護（セルフケアを必要とする成人の看護、リハビリテーションを必要とする成人の看護、がんと共に生きる成人の看護）、5) 死を迎える成人の看護、を教育単位として組み立てた。

教育単位	教育内容	
	教	育
	とりあげる看護技術	認知領域面の学修内容
I. 成人の生活と健康	1) 成人の生活のアセスメント	1) 成人の生活のアセスメント (1) 成人期の成長・発達 (2) 成人各期の特徴 ①青年期 ②壮年期・中年期 (3) 発達の総合的視点としてのセクシュアリティ ①青年期 ②壮年期・中年期 (4) 家族と生活 ①家族とは 結婚、未婚、非婚 ②成人と仕事 ③生活の営み (5) 人生の意味 2) 成人の健康のアセスメント (1) 健康のとらえ方 ホリスティック健康観、ウエルビーイング (2) 健康に影響を及ぼす要因

教育単位	とりあげられる看護技術	教育内容	領域面の学修内容
II. 急性状況下における成人の看護	<p>3) 成人保健統計の活用</p> <p>1) 救急時の看護技術 救急患者のアセスメント技術 心肺脳蘇生法 救急患者・家族の心理的支援</p> <p>2) 集中治療中の看護技術 患者監視装置によるモニタリング フイジカルアセスメント クリティカルケア ①呼吸器系に焦点を当てたケア ②循環器系に焦点を当てたケア ③意識障害患者に焦点を当てたケア ④水・電解質の異常に焦点を当てたケア 心理的危機対処プロセスと危機介入</p>	<p>①健康信念 ②生物学的要因 ③心理的要因 ④社会・文化的要因</p> <p>(3) 身体生理的適応 ホメオスタシス</p> <p>(4) 心理社会的適応</p> <p>3) 成人保健</p>	<p>1) 救急時の看護技術 救急患者対応の特徴 救急患者の主な症状 救急治療と看護 救急患者とインフォームドコンセント 救急患者をめぐる倫理的問題</p> <p>2) 集中治療中の看護技術 クリティカルケア看護の概念 クリティカルケアが必要な人の特徴 ①身体的特徴 ②精神的特徴 集中治療で行われる主な治療・処置 集中治療で使用する機器と管理 感染防止対策 クリティカルケアと倫理的問題 患者と家族の心理反応</p>

教育単位	とりあげる看護技術	教育内容 認知領域の学修内容
<p>III. 手術を必要とする成人の看護</p>	<p>3) 感染症患者への看護技術 感染症患者のアセスメント技術 日常生活の援助 薬物療法の副作用や合併症に対する日常生活援助 隔離・予防策</p> <p>4) 災害時の看護技術 災害発生時のアセスメント 災害急性期の看護</p> <p>1) 手術前の看護技術 術前患者のアセスメント 合併症予防のための術前訓練 術前オリエンテーション インフォームドコンセント 術前処置</p> <p>2) 手術中の看護技術 術中患者のアセスメント 手術時の手洗い 手術室滅菌物の取り扱い 全身麻酔への介助 体位固定</p>	<p>3) 感染症患者への看護技術 感染症患者の身体的・精神的特徴 感染症の日常生活への影響 薬物療法の副作用や合併症に対する日常生活への影響</p> <p>感染経路別予防策</p> <p>4) 災害時の看護技術 災害急性期看護の役割 災害時の危機管理</p> <p>1) 手術前の看護技術 周手術期の概念 手術を受ける成人および家族の理解 手術患者の意思決定 手術前患者のストレス・コーピング 術前検査・処置 術後合併症の予測</p> <p>2) 手術中の看護技術 手術室看護の特徴 手術室看護の役割 ・直接介助 ・間接介助 全身麻酔に伴う障害の予防 手術器材と滅菌操作 手術体位と安全の確保</p>

教育単位	教 育 内 容	学 修 内 容
	と り あ げ る 看 護 技 術	認 知 領 域
3)	<p>手術後の看護技術 術後患者のアセスメント 術後合併症予防のための援助 早期回復への援助 安楽のための援助技術 術後疼痛コントロール 創傷ケア・ドレナージのケア</p>	<p>3) 手術後の看護技術 手術直後の看護 術後合併症予防の観察 創傷治癒促進への援助 早期離床への援助 術後疼痛の緩和 術後不快感状に対する援助 ドレーン・チューブ挿入中の援助 自己管理に向けた援助</p>
4)	<p>4) 身体像の変化への看護技術 補装具の使用 身体像の変化による日常生活への支援 身体像の変化による心理反応への支援 社会復帰への支援</p>	<p>4) 身体像の変化への看護技術 身体像と自己概念 身体像の変化による心理 補装具について 必要な社会資源の活用 セルフヘルプグループに関する情報 身体像の変化の理解と適応に及ばず要因 身体像の変化による日常生活の変化</p>
5)	<p>5) 移植に関わる看護技術 感染防止対策 移植患者と家族の心理反応への支援</p>	<p>5) 移植に関わる看護技術 移植に関する知識 脳死の判定 拒絶反応・拒絶反応抑制方法の知識 移植医療とインフォームドコンセント</p>

教育単位	教 育 内 容	認 知 領 域 面 の 学 修 内 容
<p>IV. 慢性の経過をたどる成人の看護</p> <p>1) セルフケアを必要とする成人の看護</p>	<p>と り あ げ る 看 護 技 術</p> <p>1) セルフマネジメント支援技術 契約の取り交わし 動機付け支援技術 共同目標の設定、スモールステップ法を用いた目標設定 アクシヨンプラン立案の援助 モデリングの活用技術 アクシヨンプランの評価方法 アサートイブ・コミュニケーション</p>	<p>セルフマネジメント理論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルフマネジメントの基本的考え方 ・自己効力を高める4つの情報源 ・エンパワメントの考え方 ・成人教育学の考え方 ・認知行動療法の知識 ・動機付け理論 ・リラクゼーションの知識 ・アサートイブ・コミュニケーションの意義 <p>セルフヘルプグループに関する情報 必要な社会資源の知識 機械器具の操作方法の知識 用具の使い方 疾患の知識（内科的知識、外科的知識、疾患による解剖・生理の変化、検査、治療、等）</p>
	<p>2) セルフケアに関連する看護技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工肛門・人工膀胱のセルフケア ・自己血糖測定 ・自己注射指導技術 ・自己排痰法 ・食事療法の指導技術 ・運動療法の指導技術 ・コンプライアンスを高める指導技術 	

教育単位	教 育 内 容	学 修 内 容
とりあげられる看護技術	認 知 領 域	面 の 学 修 内 容
<p>適切な鎮痛薬の投与方法 鎮痛薬の副作用の早期発見・対処 薬物以外の鎮痛法 リラクゼーション技術</p>	<p>(1) 痛みと鎮痛 ①痛みの発生メカニズム ②鎮痛薬の特徴と使用方法 ③鎮痛薬の副作用 ④薬物以外の鎮痛法 ⑤痛みの評価</p> <p>(2) がん性疼痛と看護 ①がん患者が体験する痛み ②患者の状態（生活スタイル、薬物の投与経路など）別に見た鎮痛法の適用 ③原因別に見た痛みと看護</p>	<p>(1) 痛みと鎮痛 ①痛みの発生メカニズム ②鎮痛薬の特徴と使用方法 ③鎮痛薬の副作用 ④薬物以外の鎮痛法 ⑤痛みの評価</p> <p>(2) がん性疼痛と看護 ①がん患者が体験する痛み ②患者の状態（生活スタイル、薬物の投与経路など）別に見た鎮痛法の適用 ③原因別に見た痛みと看護</p>
<p>3) 病名告知に関わる技術 成人の理解力・判断力のアセスメント 告知を受けた成人の心理反応への支援 患者・家族と医師との調整 意思決定後のサポート 倫理原則に基づいた看護の実施と評価 カウセンシング技術の活用 家族への支援</p>	<p>3) 病名告知に関わる技術 (1) インフォームドコンセントの概念 ①意思決定 ②倫理原則 ③患者の権利と医療者の義務</p> <p>(2) 病名告知に関わる問題 ①段階的告知 ②死のウェアアネス理論 ③病名告知と家族の苦悩</p> <p>(3) 悲嘆のプロセスと看護 ①危機理論・危機介入 ②患者の理解力・判断力に合わせた看護 ③告知状況別の看護</p>	<p>3) 病名告知に関わる技術 (1) インフォームドコンセントの概念 ①意思決定 ②倫理原則 ③患者の権利と医療者の義務</p> <p>(2) 病名告知に関わる問題 ①段階的告知 ②死のウェアアネス理論 ③病名告知と家族の苦悩</p> <p>(3) 悲嘆のプロセスと看護 ①危機理論・危機介入 ②患者の理解力・判断力に合わせた看護 ③告知状況別の看護</p>
<p>4) がんサバイバー支援技術 がんサバイバーの心理状態のアセスメント</p>	<p>4) がんサバイバー支援技術 (1) がんサバイバーの概念 (2) がんサバイバーとその看護</p>	<p>4) がんサバイバー支援技術 (1) がんサバイバーの概念 (2) がんサバイバーとその看護</p>

教育単位	教 育 内 容	学 修 内 容
と	と	と
り	り	り
あ	あ	あ
げ	げ	げ
る	る	る
看	看	看
護	護	護
技	技	技
術	術	術
<p>カウセンシング技法の活用 デス・エデュケーションの実施と評価 社会資源の活用</p>	<p>① Search for Meaning の概念と看護 ② サバイバーの時期別看護 ③ サバイバーの心理と看護 ④ デス・エデュケーション (3) 社会資源と看護 ① ピア・サポートの役割と活用 ② セルフヘルプグループの役割と活用</p>	<p>1) 死を迎える成人への支援技術 (1) 死にゆく人の心理過程と看護 ① 死にゆく人の心理過程 ② 死にゆく人の悲嘆 ③ 死にゆく人の悲嘆に対する看護 (2) 全人的苦痛と看護 ① 全人的苦痛 ② スピリチュアル・ペインと看護 (3) 終末期にみられる苦痛症状と看護 ① 終末期に見られる苦痛症状 ② 苦痛症状の緩和と看護 (パリアティブケア) (4) 代替療法と看護 ① 代替療法の概念 ② 代替療法の種類と効用 ③ 代替療法の活用 (5) ソーシャルサポートと看護 ① 死にゆく患者のソーシャルサポート ② サポートメンバーの役割 ③ サポートメンバーの活用</p>
<p>V. 死を迎える成人の看護</p>	<p>1) 死を迎える成人への支援技術 成人の心理状態のアセスメント 成人の苦痛状態のアセスメント 身体症状緩和のためのケア 様々な苦痛を抱えた人の日常生活援助技術 傾聴・共感の技術 存在する技術 タッチ、マッサージ技術 成人のソーシャルサポートのアセスメント サポートメンバーの活用</p>	<p>1) 死を迎える成人への支援技術 (1) 死にゆく人の心理過程と看護 ① 死にゆく人の心理過程 ② 死にゆく人の悲嘆 ③ 死にゆく人の悲嘆に対する看護 (2) 全人的苦痛と看護 ① 全人的苦痛 ② スピリチュアル・ペインと看護 (3) 終末期にみられる苦痛症状と看護 ① 終末期に見られる苦痛症状 ② 苦痛症状の緩和と看護 (パリアティブケア) (4) 代替療法と看護 ① 代替療法の概念 ② 代替療法の種類と効用 ③ 代替療法の活用 (5) ソーシャルサポートと看護 ① 死にゆく患者のソーシャルサポート ② サポートメンバーの役割 ③ サポートメンバーの活用</p>